

区民と練馬区基本構想審議会との意見交換会
概要（確定版）

日時：平成20年12月12日（金）午後2時～3時50分
会場：関区民ホール

出席委員（五十音順）

秋元和子、浅野祐介、岩崎久美子、村松昭、山口不二夫

参加者 8名

1. 開会

－委員からあいさつ

2. 審議会委員紹介

－事務局から出席委員を紹介

3. 新基本構想の検討経過

－事務局から新基本構想の策定、審議会の位置づけ等について説明

4. 「中間のまとめ」の概要説明

－委員から説明

5. 「中間のまとめ」について寄せられた意見の紹介

－事務局から、12月11日までに11名の方と1団体から、11月29日の区政モニター懇談会にて20名の方から「中間のまとめ」に対するご意見をいただいたことを報告した。

6. 意見交換（※参加者の発言は、区の責任で要旨をまとめたものです）

○参加者

- ・ 練馬駅前の土地を公園にすべきである。なぜみどりをもっと増やそうという意見がないのか。このままでは杉並区に抜かれてしまう。練馬から生まれたアニメも杉並区に取られてしまった。委員の皆さんの力でこうしたことを食い止めてほしい。
- ・ ねりま公民館の近くに、タコ公園という公園があり、今改修しようとしている。7千万円ほどかけるらしいが、そのような大金をかけてなぜ改修しなければならないのか。それならば、100年の大計を立てて公園をつくってほしい。だからこそ、駅前の土地にみどりをなくさないような立派な公園をつくってほしい。
- ・ これからは子どもが一番大事だと思っているが、いじめの問題がある。学校を良くするために校長先生ががんばってほしい。校長会などを傍聴しても、校長先生がほとんど発言されていない。昔は、校長先生は立派な人だった。今の校長先生には心がない。先生が立派だった頃は犯罪など起きなかった。

- ・ 皆さんの力に期待している。

○参加者

- ・ 「中間のまとめ」の中で地域コミュニティが大きなウエイトを占めているように感じる。区政モニターの「中間のまとめ」に対する意見も、コミュニティに関することが多くを占めている。しかし、実際にみんながどんなコミュニティで活動していて、それが基本構想にどう活かされると思っているのか。実際にはコミュニティはあまり活動していないのではないかと感じる。自分も町会で活動しているが、委員だけが活動していて皆さん関心が薄いとを感じる。どうやって活性化できるかと考えている。各町会・自治会などでも何とかしなければと思っているはずだ。この点どのように考えておられるのか伺いたい。
- ・ 10年後の計画ということだが、経済をはじめ外的状況が変わると思うが、見直し規定といったものは定めるのか。

○委員

- ・ タコ公園については、区民のまちづくりを応援する「まちづくりセンター」という組織を都市整備公社が持っており、そこでタコ公園のユニバーサルデザインのワークショップに関与しているが、区民からのバリアフリーにしてほしいという意見をまとめ、区に渡した。
- ・ みどりについては、大泉の石庭の森という公園を開設した際には、もともとあったみどりを一旦学校や家庭に移設し、公園の開設時にそれを戻してもらうことを公社で行った。
- ・ 練馬駅の北口区有地については、公園にしてほしいという意見が確かにあった。ただ、駅前の一等地で、区民共有の財産として資産評価した場合、公園だけが選択肢ではないだろうという意見もあった。アニメのミュージアムなどいろいろな意見があり、公園として残すというのは、それらの意見の一つであるという趣旨で発言した。
- ・ この他は行政に対する意見だったと思う。それは事務局に受け止めてもらいたい。

○委員

- ・ みどりを増やすべきという意見はまったくその通りである。みどりがなくなるのは農家の相続の時であり、農業を辞める際、売却してマンションにするのも他に方法がないからで、何か良い仕組みがあれば良い。
- ・ 日本版ナショナルトラストのようなことを考えても良いのではないかと。後半の審議会で訴えたい。
- ・ アニメはなぜか今まで練馬でうまくいかなかった。博物館につながらなかった。でも声が大きくなってきたので是非やりたい。
- ・ コミュニティについて、職場で地域の活性化を考えている人が多く、話を聞くが、場所が練馬と言うと、地方に比べれば恵まれていると言われてしまう。練馬区は人口も増え、財政も悪くない。ただ、産業がなくベッドタウン化している。文化資源はあるのに、中央線沿線のまちに比べて整備が遅れている。しかし、最大の問題は防犯で、

重犯罪は少ないが自転車盗等軽犯罪が多いようだ。これは地域コミュニティに問題があるからではないか。地域コミュニティ再生の特効薬はないだろうから、従来の町会・自治会や防災会など、ありとあらゆる方策をやり続けるしかない。防災会を中心に地域コミュニティが再生している例はある。緑化という手もあるが、今は、いつ起こるか分からない地震に備えるために地域コミュニティの必要性が認識され始めている。

- ・ ただ、練馬区も広いので地域に合わせたいろいろなコミュニティがあり得る。学校、PTA、老人会、母親サークルなど、それぞれが活動しやすい仕組みをつくれば、そのうちに活性化のモデルができてくるだろう。
- ・ 見直し規定は思いつかなかったが必要だと思う。審議会も区の財政の実態を勉強することから始めた。区政運営のための税収を確保するには練馬区の将来像を考えないとならない。将来向かうべき方向が大きくブレないようにと考えていたが、見直し規定も考える必要がある。審議会で報告したい。
- ・ 「中間のまとめ」の将来像はベッドタウン化的要素が強いので、情報や芸術文化など知識集約型産業の集積・育成という要素を加えなければならない。

○委員

- ・ 現在の基本構想は 20 年程であり、他の自治体でも 25 年の構想も珍しくない。今回の基本構想は 10 年を計画期間としており、基本構想の実効性については 5 年スパンの長期計画の中で財源を担保することになるので、基本構想自体に見直し規定はなくても良いと思う。

○委員

- ・ 各自治体の生涯学習の部署は、20 年ほど前に文部省（当時）が生涯学習振興のための推進体制を整備するのを受けて整備された。最近では、生涯学習の部署は教育委員会よりも首長部局に置かれる傾向があり、市町村合併を行った自治体は特にその傾向が強い。首長部局におかれる背景としては、住民のコミュニティへの参画が行政コストを削減しようという行政判断により、生涯学習という名目で、まちづくりといった全体構想に関係することが多くなっていることが挙げられる。
- ・ コミュニティのイメージの中核には公的施設がある。福岡県のある地域の校区コミュニティや横浜市都築区のコミュニティハウスなど、学校を核にコミュニティをつくる例もある。災害時に学校が使われることも多いため、防災上、学校を中心にコミュニティハウスをつくり、そこに人を配し地域とつながるようだ。
- ・ 町会・自治会などのコミュニティと現在ある地域の公的施設とを今後どう結びつけるかは、これからの審議会の課題であり行政の判断である。

○参加者

- ・ 自分は農業をしているが相続で困っている。練馬だけでは相続税の問題は解決できないと言われる。
- ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院ができたが、手一杯だと言って高齢者の健康診断を受

け付けない。税金で建てた施設なのに救急車の受け入れも断られた。練馬区民は強制的に受け付けるようにしてはどうか。

- ・ スーパーの側の歩道に自転車がいっぱい止められ、通るのがやっとなので撤去してほしい。委員は一度見に行ってほしい。
- ・ 他区 of 古紙回収業者が練馬区の資源回収に出された新聞を持ち去っている。

○参加者

- ・ 「中間のまとめ」作成にはご苦労が多かったと思うが、3点ほど述べたい。
- ・ 地域の貧富の格差が大きな問題になっている。子どもだけでなく生活弱者や老人のことも重点軸に取り上げるべきだと思う。
- ・ 地域コミュニティについてももう少し具体的にしてほしい。実施体制の整備について、区、地域団体など多様な主体うんぬんとあるが、実現するための手立てももっと具体的にしてほしい。例えば老人の医療問題が深刻だが、医療の生活協同組合があり、これもコミュニティである。みどりの問題も含め、重点軸と個々の主体との調整をどうするかについて踏み込んだ答申は出せないのか。行政にどこまで責任と権限があるのか、地域コミュニティの具体化の中で明確にしてほしい。
- ・ 地域コミュニティを担う人材を行政がつくるような表現になっているが、事前に寄せられた意見にも、区が人材を育成することと主役が区民であることは矛盾しているという指摘がある。この点は慎重に扱うべき。区が育成する人材と、町会など各コミュニティを形成している主体との関係はどうなるのか。

○参加者

- ・ 練馬区の将来像を考える区民懇談会に参加した。懇談会では、子どもから高齢者までが地域で支え合い成長してほしいという問題提起をした。子どもだけでなく全体で思いやれる地域づくりという重点軸にしてほしい。委員から学校区の話があったが、私は学校区より広い関・立野地域でパトロール活動をしている。5つの町会、また児童館、福祉園などの地域の公共施設とも連携している。この地域の民生委員をしているが、子どもから老人までの問題がすべて見える。こういうコミュニティの形もあると知ってほしい。
- ・ ある小学校の避難拠点運営連絡会は活動が停滞している。町会、老人会も活発なところとそうでないところがある。地域の民生委員の私たちは、そこを何とかしようと目標を立てている。
- ・ 関・立野地域では民生委員が核となっており、練馬区に6つある保健相談所も核であり、地域にはいろいろな核がある。もっと地域の実態を勉強して、いろいろな角度から検討してほしい。

○参加者

- ・ 練馬区の将来像を考える区民懇談会に参加した。今日は参加者が少ないと思う。区民へのPRが足りないのではないかな。
- ・ 地域コミュニティという言葉が分かりにくい。大学の聴講でコミュニティ文化論を勉

強したが、地域の文化を上げることだというのが自分の結論である。そういう意味で、「安心していきいき暮らせる地域コミュニティを育む」という今回のテーマも、もっと練馬の特長が出るよう、「みどりを活かした文化の香るまちづくりのための」などとしてはどうか。区民にはテーマが一番目につくのだから。

- ・ 教育分科会に参加した際、具体的な施策アイデアを提案した。今回の資料には具体的な施策が少ない。自分が提案した中で、地域コミュニティに関わるものに地域運営学校がある。地域の人材を集めて教育やコミュニティづくりをしなければならない。
- ・ 教育委員会の体制強化ということも懇談会で提案したのだが、大事なことなので、これも盛り込めるかどうか知りたい。

○委員

- ・ 審議会では区民懇談会の意見をできるだけ反映してもらおうよう努力した。
- ・ 現在ある町会・自治会、民生・児童委員、青少年育成地区委員会などのコミュニティは、それぞれがバラバラである。区民だけでは無理なので行政の力も借りてまとめていかなければならない。そうすれば本当のコミュニティになる。「中間のまとめ」にも出ているが、横のつながりが一番大事である。地域力を結集し地域に根付いたコミュニティをつくることが重要である。今後の審議会も、一人の区民として住み続けたい練馬区になるようにとの思いをベースに参加したい。

○委員

- ・ 重点軸に区民懇談会の意見が反映されていないのはその通りだが、審議会の委員の意見にしても、すべてが反映されるわけではない。いろいろな意見をどうまとめるかが委員の力量だと思う。
- ・ 構想にすべての具体的施策は示せない。この後の長期計画に具体的部分が担保され、それを踏まえて練馬区の未来像を描いていく。審議会だけでは決められない。
- ・ 地域コミュニティについては、区民に興味・関心を持ってもらうことが大切である。そのため、防災など興味があることで伝えていくことが必要だと思う。
- ・ 行政と区民の役割分担について、町会・自治会には世代交代などうまくいかない部分がある中、きっかけや仕組みづくりの面で行政の力を借りるのが良い。
- ・ 墨田区では、地区担当員という行政の課長クラスが地域の話し合いに入っている。そういうことも大事だと思う。
- ・ 地域コミュニティの内容をはっきりするのも大事。イメージは皆さんそれぞれ違うと思うので、この点を審議会で話し合う必要がある。
- ・ 重点軸については、コミュニティの力で重点軸三つを進めて、その重点軸によってコミュニティが評価されるようにしたい。

○参加者

- ・ 災害対策条例というものがある。防災懇談会の委員をした時、まとめた意見を条例にするとこのことで専門部署に回した。意見には1年後に見直しをするという内容が入っていた。しかし、案になる時には練馬区の責任に関する部分と見直し規定が消された。

このため、今回は見直しについて盛り込んでほしかった。つくったものは見直すことが大事である。

- ・ 地域コミュニティに代わる日本語の分かりやすい言葉はないのか。

○委員

- ・ 行政として受け止めてもらわないとならない課題もあった。
- ・ 撤去できるか否かは制度的な問題があるが、放置自転車の問題は都市整備公社で受け止めたい。
- ・ 相続の問題について、都心部における農地の扱いは市街化調整区域内と外で違う。一定の農地を持っている自治体が集まり、東京都とともに働きかけをしている。これを全国展開し、税制の見直しを目指すというのが区のスタンスだと思う。
- ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院は区が誘致したが、区の施設ではないため、区民の受け入れの強制などはできないと思う。
- ・ 地域コミュニティについて区が人材育成をすると受け取られる表現になっていたが、人材育成をするのも支援するのも民間である。いただいた意見については審議会で話し合いたい。
- ・ コミュニティの核についても、審議会で検討したい。
- ・ 施策のアイデアを区民懇談会からいただいているが、そのエッセンスを施策の上の基本構想に整理していこうと考えている。具体的な施策は、長期計画や実施計画で時代に合うように展開することになると思う。
- ・ コミュニティという言葉は30年使っているが日本語になりきれない。審議会では「地域」を付して限定しているつもりである。コミュニティが広がらない、育たないという問題について、行政の施策に横軸を通すことで見直しや評価に戻っていくスパイラルな関係の仕組みにすべき、という意見に審議会でまとまった。難しいがやっていくしかないという議論があった。

○委員

- ・ 区民懇談会の意見は常に尊重しており、今後もそうするつもりである。
- ・ みどり、産業育成、文化を重点軸に入れるべきと考えている。

○委員

- ・ 重点軸の3番目に子どもしか入っていないのは、ご指摘のとおり問題である。
- ・ 関・立野地域の話もあったが、良い活動がバラバラに活動していると認知度も低いいため、練馬区という枠組みを通せば広く周知できるのではないか。都心で働く勤労者も地域の活動に入れるような、行政の枠組みがあると良い。

○委員

- ・ 子ども以外の社会的弱者が抜けているという指摘は審議会でもあった。見出しにはすべてを書けないので子どもを代表にした。中身には社会的弱者のことも書いてある。

○参加者

- ・ 意見交換会に3か所参加して心のある委員もいると感じた。しかし、意見交換会と議会の日程が重なるなど時間帯も悪いし、時間も短い。3時間でも4時間でもやるべきだ。また、円卓を囲んでみんなで発言できるような会議にすべきである。区はそのような気配りが足りない。
- ・ 昔、PTAは素晴らしかった。今は役員をやりたい人が多く、PTAの活動が衰退している。学校では子どもを守るために警備員を雇っているらしいが、昔なら考えられない。
- ・ 農家も一生懸命やっているのに、税制の問題がある。東京都と一緒に働きかけているとのことだが、もっと緊急にやってもらいたい。

○委員

- ・ こういう会に出ると、重点軸など、自分が審議会で表面だけで受け止めていた言葉一つ一つに現実的な重みを感じる。
- ・ もっと早くこういう場を経てから委員として参加したかった。
- ・ 地域コミュニティという言葉が妥当かどうかの問題もあるが、限られた行政の予算の中で、具体的にコミュニティはどのような形が良いのか、これからも精一杯審議したい。
- ・ 今後ともご意見をお願いしたい。

7. 閉会

(以上)